

「血圧という窓からぞく循環生理の裏側」

関町病院麻酔科・ペインクリニック科 加藤信也

高血圧の場合は頭痛、めまい、肩こりなどの症状が出ることがあり、また、急激な血圧低下が起きると、立ちくらみ、めまい、失神などを引き起こすこともあるため、人体には血圧を一定に保つための巧妙な仕組みが備わっています。

1：解剖・循環生理学をベースとして血圧調整機構を考察

2：血圧調節機構が破綻する場合

<講義内容>

1: 血圧とは（臨床）

2: 血圧の調整（巧妙な仕組み）

中枢と反射

1: 圧受容器（高圧受容器、低圧受容器）

2: ホルモン調節

3: 化学受容器（pH, CO₂, O₂ 分圧）→ 呼吸器

心臓・血管

前負荷、心拍出量、後負荷、血管抵抗

3: 神経調節性失神（自律神経バランスの破綻）

血管迷走神経性失神、頸動脈洞失神、状況失神